

かえるのほんや



やぎたみこ 作
PHP 研究所
税込価格 1,430円

沢山の蛙が池のほとりの柳の木に向かっている。根元の穴に入ると、そこは蛙の本屋。店長が絵本を読んでもくれる。おたまじゃくしに人気の絵本は『たまごからかえる』。奥には、草の実や蓮の茎、蛇の抜け殻など身近な素材で絵本を作る工房である。

ライオンのこころ



レイチェル・ブライト 絵
ジム・フィールド 文
安藤サクラ 訳
トウ・ヴァージズ
税込価格 1,650円
THE LION INSIDE
by Rachel Bright

誰にも気付いてもらえないくらい体が小さい野ネズミの憧れは、声が大きく、強い力を誇るライオンだ。せめて大きな声で吠えることが出来たら毎日が楽しくなるはずと閃いた野ネズミは、その教えを乞うためにライオンの所へ行く決心をする。

作家や画家が集まり編集会議で次作を検討する中、思わぬ事件が…

本屋の裏に続く森で、蛙が拾った平仮名の絵本をお手本にできた蛙の本屋。図形文字の蛙語を、見返しにある五十音対照表を使って読み解く楽しさに子どもは夢中になる。

壁一面の絵本を背に開かれるお話し会は、近所の図書館や文庫に通う日本の子ども達にお馴染みの光景。蛙の世界でも、豊かに暮らすためには絵本は欠かせない。絵本を読んでもらうひと時、自分を主人公に重ねて胸躍らせている。その姿に共感し、子どもはもう一回と声を弾ませる。(R)

一方のライオンは、強そうに見えるけれど、実は気が小さく怖がり屋。見た目とは正反対の二人が仲良くなったのは、体の大きさと関係なく、ことばで伝えあうことだった。

誰の心にも、強さと弱さが存在する。そして見た目や大きさに臆したとしてもまずは話さなければ、相手を知る一歩にはならない。

ジム・フィールドの描く優しく可愛いらしい野ネズミは、自分を変えたいと決めた時の勇気とその裏側にある怖さ、そして一歩踏み出して見ないと見えない世界を子ども達に教えてくれる。(N)

reference

E・J・キーツの俳句絵本
春の日や庭に雀の砂あひて



絵 編
エズラ・ジャック・キーツ
リチャード・ルイス
いぬいゆみこ 訳
偕成社
税込価格 1,980円

『ゆきのひ』や『ピーターの口笛』等の絵本でお馴染みのキーツが、俳句をモチーフに絵本を仕上げた。

俳句は世界で一番短い詩。十七音で、その季節も情景も思いも伝える。この日本の伝統文化は、多くの人に英訳されているが、その中からR・

ルイスが二十三句を選び、キーツがその光景をコラージュで描いた。小林一茶他十名の句だが、いずれも分子易く楽しい俳句ばかり。

その英訳をいぬいゆみこが更に和訳している。元の句と、英訳を和訳した句を比べると、日本人と外国人の感性の違いが垣間見えて楽しい。幼い子もキーツの絵を見るだけで、その俳句の雰囲気を感じられるし、英語でも日本語でも俳句そのものでも、自分の好きな分野で豊かな時間を過ごすことができる。

犬の子の くわえて寝たる 柳かな 一茶 (K)

なぞなぞのすきな女の子



作 絵
松岡享子 大社玲子
Gakken
税込価格 990円

なぞなぞが大好きな女の子がいた。一緒に遊ぶ友達を探しに森へ出かけると、そこには、お腹をすかせた狼が…。女の子は狼になぞなぞを出し、狼は答えがなかなか見つからないので、目をつぶってずっと考え込んでいるのだった。

なぞなぞは答えを考えることが多いが、自分で作って誰かに出題するのも面白い。まず、答えになる物の特徴を思い描く。すると、頭の中には色々なことが飛び交う。見返しには、女の子の作ったなぞなぞがいっぱい！ なぞなぞの魅力に惹かれて夢中になり、物語を読むことに慣れていなくても読み進んでいける。

作者がこの話を作ったきっかけは、指人形だった。指人形を使って話すと、子どもは直接狼や女の子と話すことができる。

なぞなぞは、どこでも誰とでもできることば遊び。挑戦してみよう。(Y)